

忘れてならないこと

中部未来博が近づき、各地域で催し物が多く企画されている。博物館や資料館等の施設も例外ではなく、その一部を担っている。テーマのひとつ「道」も、恵那市・美濃加茂市・大垣市を中心に、中山道を取りあげ、各種催し物が企画されているようである。

博物館に関係する者にとって、この機会に地域の文化を地域の人々を含め、多くの人に知ってもらえたなら、素晴らしいことである。そのためにも、国宝級の目玉資料の陳列で終わるのでなく、素朴でも、地域に根づいた、地域の歴史・民俗・そして自然が理解できるものでありたいと願う。

人を引きつける企画、人を引きつける展示、人を引きつける「もの」、それらは大切な要素であり否定するつもりはない。入館者の数も評価の対象となろう。しかし、忘れてはならないひとつに調査研究がある。数カ月の調査研究で展示しようとするは無謀であり、資料収集等においても無理が生じる。ただし、館内での研究蓄積があり、資料も十分整っている場合は別である。

人を引きつける企画、人を引きつける展示、人を引きつける「もの」、それらは大切な要素であり否定するつもりはない。入館者の数も評価の対象となろう。しかし、忘れてはならないひとつに調査研究がある。数カ月の調査研究で展示しようとするは無謀であり、資料収集等においても無理が生じる。ただし、館内での研究蓄積があり、資料も十分整っている場合は別である。

多くの館は、歴史も浅く、はじめ「もの」があり館が建てられたわけではない。館ができ、「もの」が集められたのが現状ではないだろうか。欧米のような何百年もの歴史と研究があり、学芸員制度が確立し、未曾有の資料を収蔵している館が日本にはない。だからこそスタートを誤ってはならない。

調査研究の基盤があって、はじめて内容が語れるのである。研究の過程での苦勞が説得力のある展示を生むのではないか。博物館は、50年後、100年後になって、その存在が評価されるものである。

忘れてはならないことの2つめは、博物館とは費用を要する施設であるということ。常に文化は内面的な側面を持ち、利益云々で計算できないものである。社会教育の一環として図書館と同じレベルで考えるべきである。

たとえ料金を徴収したとしても微々たるもので、維持・管理・資料収集には多額の金が必要になる。しかし、その出費が、やがて地域に目に見えない形で還元される時がくる。それがすぐにでないところに問題がある。とかく私たちは、すぐに目に見える形での成果を期待しすぎる。地道な努力は、いつか花開くものと信じたい。

最後に忘れてならないのは、人である。見通しの持てる、有能な館員の確保に努めるべきである。博物館の展示も館員が創りだすものである。館員の力量は、常に展示が生き生きしているかどうかで見ることができる。何もしていない館の展示は、ほこりがかぶったままで置かれている。まさに放置である。

博物館の展示は、一時的に金をかければ出来るかもしれないが、それは、真の展示ではない。

博物館が多く建てられているが、どこも維持するだけで精一ぱいである。

国や自治体の補助が望まれると同時に、永続的な予算見通しなくして博物館をつくることに危惧を感じる。

S. A

大会に参加して

昭和62年10月6～7日 北海道釧路市オリエンタルホテルにおいて、第35回全国博物館大会が開催された。当日は全国から200名ほどの参加者があった。その出席者の5割が各博物館等の長職であった。

今回の大会は、昭和32年に同地で第5回大会が開催されて以来30年振りの大会であり、折しも釧路市立博物館の永年に亘る博物館活動が原動力となって、釧路湿原が国立公園に指定され記念すべき大会であった。大会のテーマは「博物館を巡る環境と博物館が作り出す環境」の中で、全国博物館会議、記念講演「タンチョウの世界」各部会が行われた。部会の主な討議内容の概要を紹介する。

第一部会＝人文系大規模博物館部会、第二部会＝人文系中小規模博物館部会、第三部会＝自然系大規模博物館部会、第四部会＝自然系中小規模博物館部会に分れて討議が行われた。

第一部会

- 物理的に博物館の型は、2種類に分けられるが、都市型は入館者数が多いが環境は悪い。都市より遠い型は環境はよいが入館者数に問題がある。
- 収藏品等は相互に情報を交換する。
- 特別展の企画を共同分担することによりよい結果が出る。
- 税制上の問題

第二部会

- 博物館とはなにか、住民と博物館である。
- 各種の博物館が1カ所中心であるが、分散すると情報のネットワークに問題が生ずる。
- 公園の施設を中心とした博物館と住民との综合利用
- 博物館の設置者が県市町村等種々ある。

第三部会

- 自然的環境については、立地条件により交通の便のよいところは入館者数が多い。
- 都市で条件のよい場所は、土地に問題ある。



- 社会の変化にともなう先端技術の展示方法
- 博物館に協力する組織、友の会とは別にPRは、博物館のイメージに繋がるので重要である。

第四部会

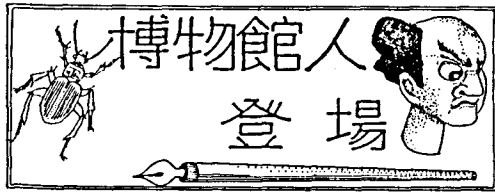
- 博物館法によらない博物館が非常に多くあるが、利用者の増を図る方法はないか。
 - 全国博物館のリスト 発行
 - 学芸員の対応の仕方
 - 入館者の増に繋がる方法は、情報のネットワーク化
 - 生き残るには、なにを企画するか。
 - 各地で開催される博覧会の後追いではない。

第35回全国博物館大会決議

第35回全国博物館大会において、充分討議の結果、次の事項について、その速やかな実現を国及び関係機関に対して要望する。

1. 生涯学習における博物館の重要性に鑑み、その法的性格の見直しを行い、関係法会の改正を図られたい。
2. 税制改正については、博物館運営の基盤確立のため税制を抜本的に改善せられたい。
 - (イ) 試験研究法人の認定基準の大幅緩和。
 - (ロ) 指定寄附の適用を容易に認められるよう簡易化。
 - (ハ) 地方公共団体に対する博物館資料の譲渡所得税の減免措置。
3. 博物館活動の活性化を図るため、博物館情報ネットワークの構築に対する国の助成を図られたい。
4. 私立博物館の振興のため、公立博物館と同様の国による助成の道を図られたい。

(岐阜県博物館・西部)



岐阜市少年科学センター

まる やま じゅん じ

丸山 順士 氏

サイエンスを伝える

岐阜市本荘にある岐阜市少年科学センターは、子供達へサイエンスをわかりやすく紹介するために昭和55年開館しました。当時、岐阜公園にあって理工系を中心としていた児童科学館を母胎に自然の分野を加え発展させたものです。昭和63年11月にはプラネタリウムを併設、宇宙科学分野も充実することになっています。



使って簡単に同じものを作れますけれど』

現在も、展示品の大半は自分達で修理するとのこと。机の上にもテスターですとか、はんだごてなどがあり理工系博物館の苦勞がしのべれます。

昭和51年には、博物館協会の海外博物館研修に参加。『特に、印象に残ったのはパリの発明発見の

児童科学館から少年科学センターへと20年にわたりサイエンスを子供達に紹介する仕事にたずさわってきた丸山順士さんを訪ねてみました。

丸山さんとサイエンスの出会い、小学校4年生の時作った鉱石ラジオ。『中学高校時代ラジオは作っていたけれど、特別にサイエンスが好きというわけじゃなかったし、現在のような仕事に就くことは想像してなかったです』

高校3年の時、テレビで見た科学者の『サイエンスは人類を滅ぼすかもしれないけれど、人類はサイエンスを捨て去ることはできない』という科白に感激。当時、欠員のあった児童科学館に勤務できるならばと岐阜市に就職。『10年はがんばりなさい』という恩師の言葉を胸に現在に至った。

児童科学館時代は、展示品の修理、作製の毎日が続いた。そんななかで、自作の展示品への子供達の反応が励みになったという。数あてゲームがいちばんの劣作。『昭和47年頃でした。二進法を紹介するためのものです。1個につき12本配線を必要とするリレーを200個ほど使って作りました。一つでも配線をミスすると上手く動きませんから一つ一つの配線を点検するのがたいへんでした。今なら、コンピュータを

宮殿です。各コーナーで、パリ大学理学部の学生が白衣を着用、呼び込みまで自分で行って、最新のサイエンス情報をねたにショーを行っていたんです。ショー自体もおもしろかったんですが、ショーが学生の単位になると聞いて驚きました』

現在、準備中のプラネタリウムについてうかがってみました。『直径20m程で、規模としては名古屋の科学館と同じくらいですけど、各座席にアナライザーを装備するんです。それでクイズを楽しんだり、観客の意志でプログラムの進行が変わってくる参加性を重視したものにしたいと思っています』

単に見るだけではなく自分で動かしたり試したり参加できるというのは少年科学センターの展示に一貫する方針のようで、子供達だけでなく大人でも楽しめるようになっていきます。また、少年科学センターでは、展示の外に、各種の講座を開催。特に、パソコン教室は、毎回定員がすぐいっぱいになるほど盛況です。

最後に、20年間子供達を見てきて『手先の器用さが失われてきてますね。サイエンスだけでなくもっといろんな分野に挑戦してもらいたい』との事でした。

(岐阜市歴史博物館・土山)

今、関東の博物館は(1)

岐阜県博物館 今井雅巳

「博物館が動きだした。新たな博物館の活動、新たな博物館の時代を迎えつつある！」今年になって、5月と10月の2回、関東地方のいくつかの博物館をめぐって、こんな印象・衝撃を受けました。東京を中心として、数多くの博物館が新たに誕生し、また展示改装、改築をして生まれかわり、博物館界そのものが大きな“ウネリ”を見せているようです。

板橋区立美術館・栃木県立博物館・埼玉県立歴史博物館・東京国立博物館・東京芸術大学資料館・国立科学博物館・山種美術館・サントリー美術館・群馬県立歴史博物館等々をめぐっての関東博物館事情をお伝えしようと思います。

「他県の県立博物館は、どんな展示をし、どんな催し物をやっているのだろうか？」という、教育普及事業面での疑問、「来年度の催し物に何か参考になることはないだろうか。」そんな思いから、フラリと全く私的に出かけて行って、驚き、かつ腰を抜かして帰ってきたのです。

〈栃木県立博物館〉

自然と人文の総合博物館として開館5周年を迎えます。9:30 その日一番の入館者として館内に入りました。観るのは展示品ではなく、照明であり、ケースであり、キャプション、展示台です。立ったり、座ったりのおかしな観客に、「どちらからおいでですか？」と美しいコンパニオンが声をかけてくれました。

「この資料、全部館蔵品なの？」

「展示ディスプレイは学芸員、それとも業者？」

「特別展の企画・運営にコンパニオンはどのようにかかわってゆくのか？」という質問に、

「やはり、博物館の方でしたのネ。どうも様子が変だと思っていました。遠い岐阜から、わざわざおこしいただき、ありがとうございます。」コンパニオンの知的な、内面的美しさに引かれ、次々と質問をしました。

テキパキと返答しつつ、「そのことは私ではわかりません。担当の学芸員をご紹介します。」

極めて礼儀正しく、かつコンパニオンの使命を十二分に自覚し、誇りを持って働いている姿に、感動しました。

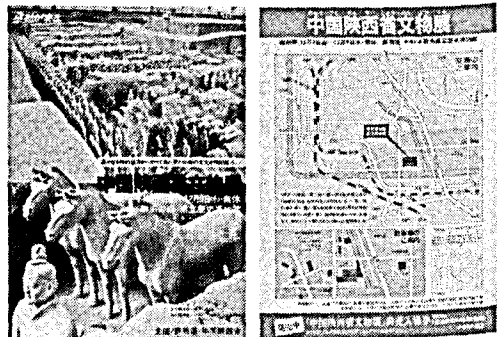
「15人いるコンパニオンが、今日は何人の人に声をかけ、解説してさしあげたかを競っています。」この姿勢に栃木県博への来館者は、きっと2度、3度と足を運ぶことでしょう。

〈群馬県立歴史博物館〉

『中国陝西省文物展』を観たくて夜行に乗って出かけました。“文物”展示品そのものは、かつて2度の中国行きで観たなつかしいものが多かったのですが、展示レイアウトと、コーナーパネル、キャプションの素晴らしさに目を見張りました。

「突然で失礼ですが、担当された学芸員にお会いしたいのですが。」と恐る恐る名刺を差し出すと、連れていかれたのは館長室でした。

「遠い所をようこそ。今回の特別展は、群馬県としては、初めての海外企画展です。中国との県民レベルでの交流を花咲かせた1つです。16万人の小・中・高生全員に無料で観せるべく10月9日～12月9日まで、2カ月休館なしで、頑張っています。子供たちの未来のため企画です。」忙しいなか、1時間近くも森田館長は、突然の訪問者に語って下さり、展示レイアウト図、キャプション原稿も自らコピーして手渡してくださいました。博物館に『もの』は欠くべからざるものですが『ヒト』こそが博物館を生かし、動かすものだとの認識を深くしました。



手づくり展示技術講習

第7回会員研修会が、飛騨民俗村・博石館・内藤記念くすり博物館・豊蔵資料館・岐阜県博物館の参加で開催されました。

午前中はパネル作り。ベニヤで台が用意されていたので、紙はりの作業だけでしたが、用紙、のり、のぼし方など道具さえあれば簡単にできることが実証されました。

今回の一番の収穫は手づくりキャプションです。現在内藤記念くすり博物館の常設展で使用されているもので、簡単に、しかも同じものを何枚でも作れる方法です。

製作方法 (林学芸員による)

1. ワープロで名称・解説など必要なサイズを決定し打ち込む。

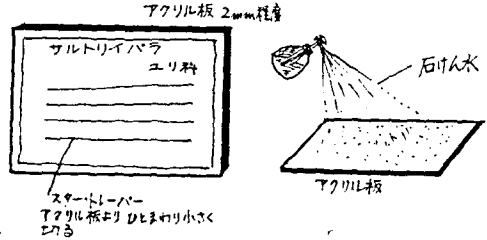
2. 熱転写プリンターで印刷、この時用紙にスター・トレーパーを用いる。

スター・トレーパー A4サイズ 80円

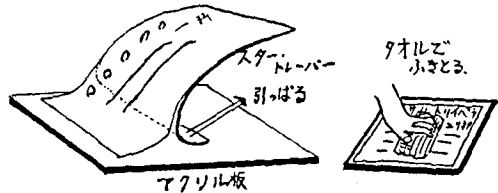
3. アクリル板を用意する。白〜グレーの方

が品が良いとのこと。

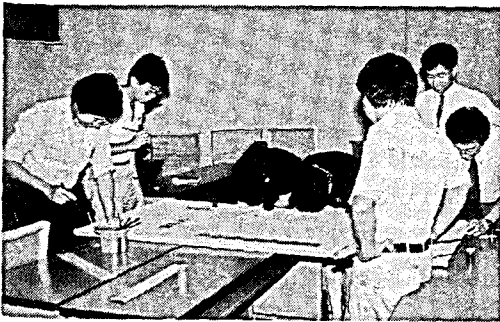
4. アクリル板に石けん水を吹きつける。



5. 空気を押し出すようにタオル等でふく。



6. 不必要になったら簡単にはがすことができます。



第35回岐博協セミナー案内 = 予定 =

場所 岐阜県美術館

岐阜市宇佐4丁目

TEL (0582)-71-1313

日時 昭和63年1月24日(日)

午後1時～

内容 企画展 今日の造形

「リー・ウーハン」展

講師 リー・ウーハン

「私の作品をめぐる」

第8回会員研修会案内

場所 高山市飛騨民俗村

高山市上岡本町 TEL (0577)33-4714

日時 昭和62年11月19日(木)～20日(金)

内容 資料の展示と管理・保存

19日 効果的な資料展示と解説

20日 資料の管理と保存

宿泊場所 山久旅館 (法華寺前)

TEL (0577)-32-3756

○宿泊の関係がありますので前日までに事務局までご連絡下さい。

会員研修会の明日のために

(財)豊蔵資料館 学芸員 齋藤基生

岐博協の会員研修会は一昨年来すでに6回を数える。しかし当初の目標とは裏腹に必ずしもその実をあげているとは言い難い。そろそろこのあたりで思いきった手を打たないと、岐博協のお荷物となり、また各会員の地位向上にもつながらない。もっと危機感を持つべきである。

以下研修会に対する提言をおこないたい。岐博協による会員のための能力検定制度の確立が必要である。博物館活動を進める上に欠く事のできない知識・技術に関し、年間15単位程度のカリキュラムを組み、講義や実技講習の後に必ず試験をする。一定水準に達した者に対して、その都度単位取得の認定をする。すべての単位を取得するか否かは各会員の自主的判断に任せればよい。そして初年度は初級コースから始め順次上級へ進むシステムを作る必要がある。講師は安易に外部に頼るのではなく、会員の中からその分野を得意とする人がやればよい。まさか講師の引き受け手が一人もいないほど岐博協の会員が無能だとは思いたくない。仮に力量がそれほどなくてもお互い磨き合い高めていけばよいのである。また今さらいい年をして講義だ試験だとバカバカしく思われるかもしれません。それに自分自身いつまで今の職場に留まれるかわからないのと言われるむきもあるかもしれません。しかし、そんな消極的な考えでは博物館はよくなるしないし、自らたらい回し人事にのっていくことになる。自分自身が労苦と努力を惜しんでおいて、わからず屋の上司に自分の立場を理解してもらえんと思ったら大間違いだ。我々はずっと自己に厳しくなるべきだ。とにかく岐博協は、文部省の認める「学芸員」資格のように全国には通用しないかもしれないが、少なくとも岐阜県内においては大きな影響力を持つ検定制度を作るべきである。小手先でお茶を濁すのではなく、水準に達しないものに対して

は厳しく対処しなければいけない。そして一定の習熟度に達する知識と技術を持った人材を育て、積極的にそれらの人々の地位保全をはかる必要がある。岐博協がこれらを実行できる唯一の立場にあり、かつそれだけの力量と権威を持っていると考える。

普通我々は自動車を運転する際、運転免許証を必要とする。そのため直接試験場へ出向いたり、自動車学校へ通いその取得を目指す。自動車学校ではその習熟度に応じて規定の段階を一段づつ登っていく。そこでは高度の知識や技能が求められるのではなく、必要最少限度さえ適格に満たせばよい。あとは実際の公道へ一人出て揉まれ、実践力を身につけるのである。これに対し我々博物館に勤める職員はどうだろうか。まさに無免許運転と同じである(ここでは学芸員資格云々は問題ではない)。所内を教官付きでウロウロしているはそれでもよかろう。しかし、ハンドルとアクセルとブレーキの操作法を覚えたからといって、いきなり公道へ飛び出すのは如何なものであろう。自損事故なら構わない。ただその巻き添えをくろう来館者はたまったものではない。免許証を持っていても暴走が許されないのと同様、いくら安全な運転ができるからといって無免許では世間に与える安心感・信頼感が違う。

博物館の職員には文部省が認めるところの学芸員なるものがある。その大部分は大学の養成課程で粗製乱造されている。しょせん彼らは教習所育ちであり、実際の運転にはほど遠い。今我々には第2種免許が求められているのである。

岐博協は建前論による文部省の学芸員ではなく、現場に強い職員を一人でも多く育て、かつその努力に対し何らかの報い与える必要がある。今こそ岐博協は自前のカリキュラムと講師陣を揃えて、全会員を厳しくリードする時である。

第33・34回 岐博協セミナー報告

「苗木藩と遠山家」 吉田三郎氏
「青邨の印象」 安江 武氏
「青邨記念館・解説」 渡辺美津子女史
とき S 62. 8. 31 (月)
ところ 中津川市役所・青邨記念館



本年度2回目のセミナーが、中津川市教育委員会の絶大なる協力のもとに開催され50名余の参加者を得て、大盛況。充実した学習の時を過ごしました。

雨天のため、苗木城跡の見学は中止されましたが、元東濃教育事務所長吉田先生のスライドをまじえてのお話から、苗木藩のありし日を深くしのぶことができました。

「青邨さんは、絵筆をズズッとすすりながら破墨画を描かれていました。」前田青邨画伯が戦争中に疎開の宿とされていた安江先生からは、人間“青邨”の暖かさを伺いました。

「毎日この絵を観ていますが、その都度、新しい発見があります。この空間のもつ張りつめた空気を視て下さい。」『白河楽翁公』の絵の前に立ち、青邨記念館の渡辺女史が語って下さった言葉も、耳に残っています。



「大垣藩戊辰の役」 山田美春氏
「大垣城・『大垣藩と戊辰の役』展」見学
「大垣市郷土館・『上田秋陽』展」見学
とき S 62. 10. 8
ところ 大垣市総合福祉会館

大垣市文化財保護協会と共催の形で講演会が行われ、99名という大変多くの参加があり、盛況を極めました。遠く、郡上八幡町の文化財保護協会関係者25名も、マイクロバスで駆けつけられ、準備した資料がすべてなくなる事態となり、事務局としては、うれしい悲鳴をあげることとなりました。

1868年、今を去る119年昔『戊辰戦争』がおこり、日本は新しい国づくりへむけて大きく、ゆれ動きます。その時、大垣藩は小原鉄心らの説くところにより勤王派となり、新政府軍として、旧幕府との戦いにのぞむこととなります。

若き大垣藩士が、遠く会津の地に数多く眠っていると語られる山田先生のお話には、来年がちょうど2巡目の戊辰の年であるという時の流れを止めさせるような力がありました。

大垣城では、ちょうどこの『大垣藩と戊辰の役』の特別展が開催されており、講演の後にじっくりと見学することができました。

また、郷土館では郷土の作家シリーズとして『上田秋陽』展が開かれていて、これも、大垣市教育委員会の特別なおはからいにより、大垣城ともども、無料で見せていただきました。

セミナーが回を重ねる毎に充実し、中味が濃くなってゆくことをとても嬉しく思います。



≡ 県内ニュース ≡

新入会・館園紹介

- 大垣市児童文化センター（公立）
〒503 大垣市東外側町2-24
TEL (0584)-78-2564
 - 高山短大・飛騨自然博物館（私立）
〒506 高山市下林町1155
TEL (0577)-32-4440
 - 兼山町民俗資料館（公立）
〒505-01 可児郡兼山町
TEL (0574)-59-2111
 - 斎藤美術館（私立）
〒501-42 郡上郡八幡町新町927
TEL (05756)-5-3539
- 次回からの館園紹介で順次掲載します。

情報コーナー

- 博物館・美術館の教育プログラム
ミュージアム・ワーク・シート
発行 丹青総合研究所
- 博物館・美術館等における来館者に対する教育プログラムのひとつワーク・シートの事例集です。欧米・国内の事例が紹介されており、今後の博物館教育の参考になるのではないのでしょうか。この本では、ワーク・シートとは何か、ワーク・シートの作り方の要点など、来館者により学習効果をあげるための活用法がわかりやすく書かれています。申し込みは、東京都台東区秋葉原5-9 丹青総合研究所へ。

＝ ちょっとお願い ＝

「博物館実務ビデオ講座〈全8巻〉」が、丹青総合研究所より、11月に刊行されます。

第1巻	展示環境の基礎知識	15分
第2巻	軸装の取扱い	16分
第3巻	卷子・折本・冊子の取扱い	12分
第4巻	屏風・襖・衝立の取扱い	9分
第5巻	彫刻の取扱い	19分
第6巻	仏像の梱包	19分
第7巻	金工品・漆・陶磁器の取扱い	20分
第8巻	刀剣の取扱い	19分

セット購入価格235,000円（テキスト付）

各館の学芸職員の技術研修には最適の教材になるのではないかと思います。個人や各館で購入するには、かなりの負担ともなります。岐博協の協会備品として、購入していただくような手だてではないのでしょうか。今回は「美術工芸品の取扱い方」としての第一弾だそうです。長期的展望にたった、協会のご英断を望むものです。

＝ ミュージアム・ショップの充実を＝

先日、東京は上野にある国立科学博物館を訪れました。特別展示『こはく展』を開催中でしたが、“地下の売店にてこはく特別セール”との張り紙が目につきました。

恐竜の模型や、花の図鑑、Tシャツにまじって、こはくのペンダントやブローチが販売されていました。あやしい美しさにひかれて、つい1つ買ってしまいました。楽しい気分になりました。何でもかんでも売れば良いとは申しませんが、ものによっては、購入できることも大きな楽しみのひとつではないでしょうか。

日本橋兜町にある山種美術館では『富岡鐵齋展』の前期が開かれていました。展示解説の素晴らしさもさることながら、入口近くにあった、ミュージアム・ショップが出口近くに移され、スペースが広まり、今までの特別展の図録や色紙など、販売物が充実し、たまに訪れる者には、とてもありがたい心づかいだと思います。県内の各館もミュージアム・ショップの充実を！

編集後記

- ◎ まだ長い眠りから目ざめない編集者のため機関紙も遅れています。これからは編集長を頼らず、書きまくりませう。(M・I)
- ◎ そうそう無能な編集長をあてにしないでこれからは、各館園にどんどん投稿依頼をしていきます。(S・A)
- ◎ わが館園自慢なんて企画もおもしろいし、どの館園が、どんな資料を持っているか情報交換できるといいですね。(S・A)